

平成30年度
こころ医療福祉専門学校壱岐校
学校自己評価結果報告書

平成31年4月4日

文部科学省・専修学校における学校評価ガイドライン
(平成25年) 準拠

1. 学校の教育目標 平成30年度

1 学校経営スローガン「傍らに人あり」の精神を大切にする心豊かな介護人材の育成

2 重点教育目標

- (1) 学生間の総合的な調和力の向上
- (2) 「工夫した授業」による国家試験合格率100%の達成
- (3) 進路の具現化100%の達成
- (4) 留学生の安全・安心100%の達成
- (5) グループ間の連携

3 具体的な対策

- (1) ①校内・外行事の円滑な活用
- (1) ②授業及び施設実習における班学習の活用
- (2) ①授業内容(質)と課題学習(量)及びチェック機能の充実
- (1) ②留学生に対する日本語及び介護用語の計画的な指導の実施
- (3) ①各自の進路に対する意識啓発運動・面談の実施・具体的な情報の提供
- (3) ②計画的な国家試験対策の実施及び段階に応じた施設実習の充実
- (4) アルバイト先との連携による就労時間の厳守, 相談窓口の開放
- (5) 系列施設主催行事への会場及び人員の提供

4 地域社会との関係

- (1) ボランティアを含む地域行事への参加を積極的に行う。
- (2) 研修会等を通じて地域との連携を深める。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 学生を「鍛え、育てる指導」の推進と国家試験合格率の向上
- (2) 「新PDCAシステム」の導入と「組織として機能する学校づくり」の推進
- (3) 各課長・学科長のリーダーシップと行き届いた職員指導
- (4) 「報告」・「連絡」・「相談」の徹底
- (5) 留学生の組織的・計画的な指導の充実
- (6) 日常業務での若手職員の「意識啓発」と「人材育成」
- (7) 学校・施設等の「連携強化」と具体化

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。 (専門分野の特性が明確になっているか)	4	3	2	1	学校の理念は、学生便覧等にも揭示され明確である。「等しく可能性を信じ」、「専門分野の深い知識」のみならず、「誠実、気力、知恵と行動力」を育むことで「社会に貢献」する姿勢は専門学校の理念として相応しく、専門職としての人格と知識・技能を備えた信頼される社会人を輩出することで社会に貢献することが目的である。 【教職員アンケート 質問1 3.07】
・学校における職業教育の特色は何か。	4	3	2	1	専門的な経験を積んだ専任教員を中心に、各業界との連携を重視し、理論と実践のバランスがとれた教育を実施している。また現場で活躍する非常勤講師を豊富にそろえ、学生に適切な現場実習の機会を提供するよう努めている。
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	4	3	2	1	今後、さらに進行する少子高齢化に備え、老人福祉施設や地域社会との密接な連携を推進し、社会のニーズに合った将来を見通した学校経営を計画している。
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか。	4	3	2	1	オープンキャンパス等の入学前ガイダンスを通じて、また、入学後も保護者説明会、オリエンテーションを通じて繰り返し周知を図っている。全学生に対するクラスごとの個別面談を利用して、周知状況は確認している。学生や保護者などからの、周知不足によるクレームはない。 【教職員アンケート 質問2 2.27】 【学生アンケート 質問1 3.11】 平均:2.69
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。	4	3	2	1	関連業界との情報交換を積極的に行い、将来的な業界のニーズに対する理解も深まっている。卒業生が将来的な業界のニーズにも応えられるように学校教育に反映している。

①課題

関連団体との情報交換、実習等による実践的な能力を有する人材の育成は行っている。
今後、より地域に貢献できる人材の育成をしていかなければならない。
学校の理念・教育目標について、学生・保護者への周知の徹底が必要である。

②今後の改善方策

学生募集にかかる新しいパンフレットでは学校沿革から将来構想まで特集ページを組んで周知を図っていく。それにより、問題意識をもった学生の入学に繋げ、地域での需要に応えられる教育機関としての役割を果たせるよう努めていく。
学校理念・教育目標についてオープンキャンパスやガイダンスの機会を利用して丁寧に説明していく。
学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会の意見を参考に高校生の動向の把握に努め、これまで以上に本校の教育内容の周知に努める。

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(2) 学校運営

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・目的等に沿った運営方針が策定されているか。	4	3	2	1	地域の医療・福祉を包括的に支援できる教育機関として成長するという岩永学園グループの目的を実現するため、グループ内の社会福祉施設はもちろん、地域の福祉施設との連携を推進し、より実践的な教育を目指した運営方針が策定されている。
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	4	3	2	1	事業計画は、地域の医療・福祉を包括的に支援できる組織になるという学校の運営方針に沿って、毎年度初めに2年、3年後までの具体的な事業計画が発表されている。
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか。	4	3	2	1	学校運営方針に基づき、定期的な職員会議を実施し、具体的な活動計画を定めている。また、定期的な会議以外にも状況に応じてミーティングを行い、職員同士の情報交換及び意思統一を密に行っている。 【教職員アンケート 質問3 2.40】
・人事、給与に関する規定等は整備されているか。	4	3	2	1	就業規則により明確に定められている。
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。	4	3	2	1	教務担当と財務担当を総務部が兼務している。
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	4	3	2	1	地域自治会への積極的参加、教育課程編成委員会等を通じて、業界や地域社会へのコンプライアンス体制が整備されている。
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	4	3	2	1	教育課程編成委員会、学校ホームページや学生募集活動におけるガイダンスやオープンキャンパスなどを通じて、積極的に教育活動を外部に対して情報公開している。求められている内容について、可能な限りの手段で積極的に外部への情報公開をしている。 【教職員アンケート 質問4 2.13】
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4	3	2	1	業務効率化のため学校内情報システムの整備を行っている。

①課題

データバックアップ体制の強化。各種委員会制度の実態的機能の向上不足。

②今後の改善方策

データのバックアップ方法を検討し、適切な管理を行う。業務効率化のため各職員の役割を明確にするとともに報告連絡相談体制の充実を図り、学校運営に活かしていく。

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(3) 教育活動

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	4	3	2	1	本校の教育理念に基づき、関連業界とも連携しながら社会に役立つ人材の育成に向けて、実践的な職業教育を意識して教育課程の編成と実施が実行されている。 【教職員アンケート 質問5 3.07】
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4	3	2	1	養成施設指定規則に基づき修業年限や学習時間、目標とする到達レベルが明確にされている。 【教職員アンケート 質問6 2.53】
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	4	3	2	1	養成施設指定規則に基づき体系的なカリキュラム編成を行っている。 【教職員アンケート 質問7 3.20】
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4	3	2	1	教員と介護現場との情報交換をもとに、より実践に近い形で教育が行われるよう工夫に努めている。また、教育課程編成会議でいただいた意見を可能な限り授業内容に取り入れている。 【教職員アンケート 質問8 2.27】
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか。	4	3	2	1	介護実習を通して、産学連携による実践的な職業教育がなされている。 【教職員アンケート 質問9 3.20】
・授業評価の実施・評価体制はあるか。	4	3	2	1	前期と後期の終わりに、すべてのクラスで授業評価アンケートを実施し、アンケート結果を集計し、各教員で供覧し授業改善の評価材料としている。
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。	4	3	2	1	教育課程編成会議を年2回実施し、委員からの評価を受けている。
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	4	3	2	1	学則および各種規定に基づき、成績評価、単位認定、進級判定、卒業判定の基準は明確にされている。
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	4	3	2	1	養成施設指定規則に基づき、資格取得に関する指導体制、カリキュラムなどが体系的に位置づけられている。 【教職員アンケート 質問10 3.07】
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	4	3	2	1	国家資格の養成施設指定規則に則り、適切な資格要件はもちろん、臨床指導力も優れた教員を確保している。
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか。	4	3	2	1	介護現場とは教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会、介護実習指導及びそれに先がけた研修を通じて、定期的に意識や知識の共有を図っている。また、教員は実務経験を活かして介護現場との連携を深め、情報交換を密にすることによって各自の知識と技術の維持・研鑽に努めている。
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか。	4	3	2	1	教員が関連の主要な学会に参加して、研鑽を積む取り組みをしている。また、全教職員に対して、全般的な指導力向上のための研修を定期的に行っている。 【教職員アンケート 質問11 2.13】
・職員の能力開発のための研修等が行われているか。	4	3	2	1	1月、3月に全職員による教職員研修会を開催した。その他、必要に応じて教職員を選び適宜、外部の研修に参加させている。 【教職員アンケート 質問12 2.27】

①課題

職員の資質向上のための研修には参加できているが、研修内容を校内の業務運営に取り入れる体制の構築に至っていない。

②今後の改善方策

研修について、報告書の提出にとどまらず、学校内業務に主体的に取り入れる活動を評価する。

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(4) 学修成果

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・就職率の向上が図られているか。	4	3	2	1	学校主催で市内各施設との合同就職面談会を実施する等、学生の就職活動を積極的に支援し、平成30年度卒業生は全員が希望した施設に就職することができた。 【教職員アンケート 質問13 3.20】 【学生アンケート 質問2 3.51】 平均3.36
・資格取得率の向上が図られているか。	4	3	2	1	第一期生の国家試験(介護福祉士)受験に向け、定期的な模擬試験及び国家試験対策授業を実施し、着実に模擬試験の成績を向上させることができた。 【教職員アンケート 質問14 2.93】 【学生アンケート 質問3 3.64】 平均:3.29
・退学率の低減が図られているか。	4	3	2	1	学生の心配事や問題点に早期に対応し、教員をはじめ学校全体でサポートすることを常に心がけているが、1年生が1名、本人の強い進路変更希望から退学することとなった。 【教職員アンケート 質問15 2.80】 【学生アンケート 質問4 3.42】 平均:3.11
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	4	3	2	1	在校生との情報共有を密にし、社会的な活躍について常に把握しよう心がけている。卒業後の動向について情報共有ができる環境を構築するとともに、在校生に情報提供を行い、学習意欲の向上につながる取り組みを開始している。 【教職員アンケート 質問16 2.13】 【学生アンケート 質問5 2.64】 平均:2.39
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4	3	2	1	平成30年度に第1期生が卒業し、卒業生の体験を直接聞く機会を設ける準備を行っている。 【教職員アンケート 質問17 2.67】 【学生アンケート 質問6 3.40】 平均3.04

①課題

留学生の国家試験合格は非常に困難である。指導の充実はもとより、学生自身の学習意欲・目的意識を明確化し、自ら学ぶ環境を作っていくことが重要である。
今年度の退学者については、入学後、自身の希望する進路と大きく違うことに気がつき、本人・保護者との面談を重ねた上で本人の強い進路変更希望から退学する運びとなった。進学ガイダンス等で丁寧な説明を心がけていたが、実際には伝えきれていなかった部分があることに気付かされた。

②今後の改善方策

学科に対する明確なイメージを持って入学できるよう、進学ガイダンス等で丁寧かつ正確な学校説明を行う。説明に使用する資料を適宜見直し、分かりやすさ・正確性を高める。
国家試験受験に向けた動機づけを早い段階から行い、全学生が高い意欲をもって国家試験に臨む体制を構築する。
1年次から、これまで以上に国家試験合格を意識した授業を展開する。さらに実習や外部講師により授業等を通して現場に触れる機会をより多く設けて、職業意識を高めていく。

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(5) 学生支援

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4	3	2	1	関係業界に呼びかけ校内で就職説明会を開くなど、在校生の就職活動を支援している。卒業後も学園グループの人材紹介事業会社を通じて就職活動の支援ができるよう準備を開始している。 【学生アンケート 質問2 3.51】
・学生相談に関する体制は整備されているか。	4	3	2	1	クラス担任を通じた相談をはじめ、複数の相談窓口を整備している。 【教職員アンケート 質問18 3.07】 【学生アンケート 質問7 3.53】 平均:3.3
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	4	3	2	1	各種の学校独自の授業料等の減免制度に加え、各種奨学金申請及び採用にかかわる手続きの支援を積極的に行い、並行して経済的状況に応じた校納金分納の相談にも応じている。 【教職員アンケート 質問19 3.47】 【学生アンケート 質問8 3.44】 平均:3.46
・学生の健康管理を担う体制はあるか。	4	3	2	1	定期的な健康診断はもちろん、常勤看護師を中心とした衛生管理、安全・衛生指導を通じて、学生の健康管理の指導を徹底している。また、医師に病状を伝えることが困難な留學生については受診に付添い、適切な治療を受けられるよう援助している。 【教職員アンケート 質問20 3.07】 【学生アンケート 質問9 3.76】 平均:3.42
・課外活動に対する支援体制は整備されているか。	4	3	2	1	ボランティア活動やイベントの情報提供を積極的に行い、学生の参加を支援している。必要に応じて職員が引率し、率先して活動に参加している。 【教職員アンケート 質問21 2.40】 【学生アンケート 質問10 3.04】 平均:2.72
・学生の生活環境への支援は行われているか。	4	3	2	1	学校内に学生寮を設置し、留學生および島外出身者の修学を支援している。また、学生の要望を聞き取り、可能な限り環境整備を行っている。 【教職員アンケート 質問22 3.07】 【学生アンケート 質問11 3.27】 平均:3.17
・保護者と適切に連携しているか。	4	3	2	1	入学前からの面談、入学後の保護者説明会、成績状況に応じた適宜の保護者面談等を通じて、保護者との連携を重視している。 【教職員アンケート 質問23 2.40】 【学生アンケート 質問12 3.58】 平均:2.99
・卒業生への支援体制はあるか。	4	3	2	1	平成31年3月に第1期生が卒業し、介護福祉士登録や在留資格変更手続き等に対する相談対応を積極的に行っている。 【教職員アンケート 質問24 2.40】 【学生アンケート 質問13 3.13】 平均:2.77
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	4	3	2	1	授業時間を午前11時から午後4時30分とし、午前中と夕方以降の就業を可能にした。 【教職員アンケート 質問25 2.53】 【学生アンケート 質問14 3.13】 平均:2.83
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	4	3	2	1	キャリア教育の視点で高校出のガイダンス授業に積極的に参加している。 【教職員アンケート 質問26 2.83】

①課題

第一期生の卒業に伴い、卒業生への支援体制の構築が急務である。
卒業生ネットワークの整備が必要。

②今後の改善方策

卒業生に対する支援について情報収集と学生に対するニーズの聞き取りを行い、より効果的な支援体制の構築を図る。

③特記事項

学生への経済的支援は、市・連携施設との相互連携により、十分な体制を構築している。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(6) 教育環境

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1					
・施設・設備は, 教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。	4	③	2	1	施設基準は満たしており, なおかつ教室および共有区域などはスペースを確保している。必要に応じて備品の補充・更新を行っている。 また, 学生からの要望を聞き取り, 可能な限り対応している。 【教職員アンケート 質問27 2.53】 【学生アンケート 質問15 3.04】 平均:2.79	
・学内外の実習施設, インターンシップ, 海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	4	③	2	1	学外の必要な介護実習施設は確保している。 【教職員アンケート 質問28 2.80】 【学生アンケート 質問16 3.62】 平均:3.21	
・防災に対する体制は整備されているか。	④	4	3	2	1	防災訓練は最低年1回は全校で実施している。各設備の防災責任者が定められている。毎年度, 防災組織の指示系統が更新されている。

①課題

学生数の増加に伴い新たな介護実習施設を開拓する必要がある。
防災訓練は, 現在火災のみを想定して行っているが, 地震に伴う津波発生を想定した避難場所の決定と避難訓練を行う必要がある。

②今後の改善方策

地域の各施設と情報交換を密にするとともに, 関連業界と連携を取り, 組織的に介護実習施設の確保を進めていく。
平成31年度からの防災訓練では, 火災避難訓練とあわせて地震に伴う津波警報発令を想定した避難訓練を実施する。また, 消防署職員の意見を参考に避難場所を決定し, 学生・職員への周知を徹底する。

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・学生募集活動は、適正に行われているか。	4	③	2	1	高校新卒者の募集にあたって、入学試験を10月以降に実施しているが、出願については県の専修学校各種学校連合会での取り決めに沿う必要がある。その他、学生募集は適正に行われている。
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	④	3	2	1	学生募集活動において、第1期生の就職率、資格試験の合格率、介護実習の成果など、正確に伝えている。 【教職員アンケート 質問30 2.93】
・学納金は妥当なものとなっているか。	④	3	2	1	本校の学納金は、同分野の他の学校の平均的な水準と同等である。 【教職員アンケート 質問29 3.20】 【学生アンケート 質問17 3.60】 平均:3.40

①課題

専門学校入学者は全国的に減少しており、なかでも本校学科分野(介護福祉科)は減少幅が大きい。学校認知と並行して職業理解を進め潜在的なニーズの掘り起こしを同時に実行しなければならない。

②今後の改善方策

募集活動全体の変化に対応していく。具体的にはガイダンス等での接触中心から、WEB着地点など、学生情報の受け皿を整備していく。また、高等学校等との連携も深めていく。在校生の成績状況や就職先情報など高専接続にふさわしい情報を伝え、進路先として信頼されるように取り組む。社会人の募集にもハローワークおよび高等技術専門校と連携して取り組んでいる。

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(8) 財務

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・中期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	4	3	2	1	少子高齢化の中, 入学者数の確保のため学科等の教育内容の刷新を行うとともに, 経費の圧縮等で財務基盤の安定化を図っている。
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4	3	2	1	予算作成に際して, 理事長査定を実施し, 適切な予算管理を行っている。
・財務について会計監査が適性に行われているか。	4	3	2	1	適時, 内部監査を実施している。
・財務情報公開の体制整備はできているか。	4	3	2	1	公開している。

①課題

少子高齢化の波は離島地域において特に顕著である。このような状況の中, 地元に残る高校生の大切な進路先になるよう努め, 安定した授業料収入に繋げる必要がある。
小口現金等の経費精算をさらに適切に実施する必要がある。

②今後の改善方策

高校生に向けた進学ガイダンス, オープンキャンパスの機会を利用して学生の意向を汲み取ると共に, 本校の情報を正確に周知することによって早い段階で信頼関係を構築し, 入学者の増加に繋げる。

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・法令, 専修学校設置基準等の遵守と適性な運営がなされているか。	4	3	2	1	学校教育法, 養成施設指定規則等の法令に従った適性な運営がなされており, 申請書, 届出書, 学校運営に係る記録等は確実に保管されている。
・個人情報に関し, その保護のための対策がとられているか。	4	3	2	1	学生個人調書等の個人記録は施錠できるキャビネットに保管して部外者のアクセスを防止すると共に, 情報の持ち出しを禁じている。全職員を通じて, 個人情報管理意識の向上に努めている。
・自己評価の実施と問題点の改善を図っているか。	4	3	2	1	学校自己評価委員会の下, 各項目に対して, 自己評価を実施し, 各部署, 学科でそれぞれの問題点は具体的に把握し, 点検と改善を推進している。
・自己評価結果を公開しているか。	4	3	2	1	自己評価結果は学校ホームページ上で公開する予定である。

①課題

個人情報保護の必要性は年々高まりつつある一方で組織的な取組みはまだ十分とは言えない。

②今後の改善方策

個人情報保護については, 再度ルールの理解徹底に努めていく。
資料の保管方法を見直し, より適正な保管に努める。

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1	
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4 (3) 2 1	学生の地域ボランティア活動や、学校設備の地域自治会への利用、災害予防のための一時避難場所等の提供を行っている。 【教職員アンケート 質問31 3.07】
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	4 (3) 2 1	ボランティア募集情報を全学生にも周知し、地域ボランティア依頼の受入れ、実施のシステムを構築している。学校を通じたボランティア募集による活動は、必要に応じて教員も引率を行い、把握している。 【教職員アンケート 質問32 3.33】 【学生アンケート 質問19 3.47】 平均:3.40
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか。	4 (3) 2 1	佐世保高等技術専門学校から介護福祉士養成科の委託訓練を受託し、受講者の教育を積極的に実施している。 【教職員アンケート 質問33 2.80】 【学生アンケート 質問20 2.67】 平均:2.74

①課題

現在実施しているボランティア活動および地域貢献活動については、『継続は力なり』の原則のもと、今後も継続して実施することが不可欠であるが、時間確保の観点から継続的な実施に課題が残る。限られた時間内でいかに地域に貢献できるか、活動の見直しと改善が必要である。

②今後の改善方策

前年度と同じ活動を続けることにこだわらず、地域に現に必要とされているものを常に模索し、それに即したボランティア活動を計画・実施する。また、学生の意見を取り入れる機会を増やし、自発的な活動を援助することで学生自身が主体的に地域に貢献できる環境づくりを進めていく。

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(11) 国際交流

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1			
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか。	4	3	2 1	留学生の受入れをグループ内の連携をもって積極的に行っている。
・留学生の受入れ・派遣, 在籍管理等において適切な手続き等がとられているか。	4	3	2 1	外国人留学生の受入れに関し, 専門の職員を配し, 日々の記録を整備し, 適切な在籍管理を行っている。 【教職員アンケート 質問34 3.07】
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか。	4	3	2 1	留学生担当の職員を配し, 日本語の補習授業・生活指導を行うほか, 全校をあげての組織的な取り組みを行っている。 【教職員アンケート 質問35 2.67】
・学習成果が国内外で評価される取組を取っているか。	4	3	2 1	国際的な取組は, そこまで至っていない。 【教職員アンケート 質問36 2.00】

①課題

学生ごとの日本語能力の格差のほか, 国による生活習慣や基本的考え方の違いが大きく, 日本人学生と同じ授業を受けさせる困難さを抱えており, 日本人学生・留学生双方の学習意欲の維持と向上が課題である。

②今後の改善方策

留学生生活指導担当者を配置し, 学内及び学外での留学生管理を進めている。また, 経験事例を積み重ねることにより, ケースデータを蓄積し, 予防的な対応がとれるようにしていく。
これまで以上に留学生の志向を考慮し, 意欲的に取り組める具体的な目標設定を行い, 就職者数の拡大に努める。

③特記事項

なし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

平成30年度

平成30年度の総括

(1) 学生を「鍛え、育てる指導」の推進と国家試験合格率の向上

第1期生の介護福祉士国家試験に向けて、授業内容の工夫、傾向と対策にもとづいた補充授業など積極的に実施した。また、日本の学生については、10月からアルバイトを退職し国家試験に集中させたが、すべての学生の十分な家庭学習時間の確保に課題があることが判明した。

次年度に向け国家試験合格に向けた学生達の意識改革を図るとともに、更なる授業内容の工夫、傾向と対策の研究、家庭学習の充実に取り組みたい。

(2) 「報告」・「連絡」・「相談」の徹底

昨年度より改善傾向にあるが、すべてのことについて充分であるかと言えば課題がある。学校運営は全員で行うという意識をもち、互いに情報の共有を図り円滑な学校運営に繋げたい。

(3) 留学生の組織的・計画的な指導の充実

朝・放課後、授業の空き時間を活用した日本語の補習授業を実施し、日本語能力の向上に努めた。入学前より、会話力は少しずつ向上しているが、介護福祉士として社会で活躍するにはまだまだ不十分である。今いる人材を活用し、介護福祉士として必要最低限度の会話力、ライティング能力の向上に努める必要がある。

また、資格外活動(アルバイト)については、アルバイト先との連携を密にして許可範囲内の活動の徹底に努めた。次年度以降も、アルバイト先の協力を得ながら法令遵守に努める。

(4) 施設などとの連携強化と具体化

留学生の増加に伴い、実習先の確保と充実した実習ができるよう、実習受け入れ施設側との事前説明会を実施し情報の共有を図った。

また、実習指導者養成講座、介護福祉士国家試験模擬授業を介護福祉科学科長を中心に実施した。今後も希望があれば施設側の要望に応え、連携を強化していきたい。

1. 学校の教育目標 平成31(2019)年度

1 ビジョン

地域の医療・福祉を包括的に支援できる組織になる

2 ビジョンの実現に向けたテーマ

地域社会から必要とされる組織であり続ける
地域社会から必要とされる人材を提供する

3 学校経営スローガン 「傍らに人あり」の精神を大切にする介護人材の育成

4 重点教育目標

- (1) 国家試験合格率(日本人)及び進路実現100%の達成
- (2) 授業の質と量の向上を図る
- (3) 留学生の安全・安心100%の達成
- (4) 報告・連絡・相談体制の推進
- (5) 効率的な学生募集の実施

5 具体的な対策

- (1) 授業・模擬試験及び施設実習の充実
- (2) 担任・学科主任による進路面談の実施
- (3) 就職合同面談会の実施
- (4) 学生相談窓口の周知・開放
- (5) ガイダンス・オープンキャンパス・広報の充実

6 地域社会との関係

- (1) 地域の公民館との連携
- (2) ボランティア活動への積極的参加を図る

2. 平成31(2019)年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 介護福祉士国家試験合格率（日本学生）100%の達成
 - ①すべての日本学生の国家試験合格に向けた意識改革の推進。入学試験及び4月のオリエンテーションにおいて国家試験の重要性、必要性、県貸付制度活用者の義務などについて説明し、学生達の意識改革を図る。
 - ②さらなる授業内容の工夫、課題チェック、試験対策の研究を行うとともに、模擬試験の回数を増やす。
- (2) 進路実現100%の達成
日本学生の吉岐市内への就職、連携奨学金適用外の留学生についての進路先確保に向けた就職合同面談会、職場開拓、キャリア教育の充実に努める。
- (3) 授業の質と量の向上を図る
先輩教師に学ぶことを基本に、互いの「授業研究」の推進に努めるとともに不足する部分を補完する体制の構築に努める。
- (4) 留学生の安全・安心100%の達成
担任を中心とした相談体制、相談窓口の周知徹底を図るとともに、寮での日常生活はもちろんのこと、疾病時等の不測の事態への対応についても円滑な推進に努める。
- (5) 報告・連絡・相談体制の推進
職員朝会、職員会議を中心に互いの情報を共有する意識改革を図る。
この中でも職員朝会及び日頃のコミュニケーションを大切にしよう努める。
- (6) ガイダンス・オープンキャンパス・広報の充実
高校におけるガイダンスには、職員を派遣し積極的に広報活動に努めるとともに、オープンキャンパスのさらなる充実に努める。